

# 調査の概要



# 調査の概要

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関しての世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

### (2) 調査項目

- 1) ゼロカーボン北海道について
- 2) ケアラー支援について
- 3) がん対策について
- 4) 部活動改革（部活動の地域移行）について
- 5) 生物多様性の取組について
- 6) 信号機のない横断歩道の交通安全について
- 7) 薬物乱用の防止について

### (3) 調査の方法

- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域                    |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満18歳以上の個人         |
| 3) 標本数  | 1,500 サンプル               |
| 4) 地点数  | 150 地点                   |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法               |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収及びWeb（スマホ）による回答 |
| 7) 調査期間 | 令和4年（2022年）9月            |

### (4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

### (5) 調査回収状況

標本数	1,500
有効回収数（率）	860（57.3%）
【回答方法内訳】	
郵送回答	547（63.6%）
Web回答	313（36.4%）
合計	860（100.0%）

## 2 調査回答者の特性

区分	総数	比率
<b>【総数】</b>	860	100.0%
<b>【圏域別】</b>		
道央広域連携地域	530	61.6%
道南連携地域	70	8.1%
道北連携地域	108	12.6%
オホーツク連携地域	41	4.8%
十勝連携地域	60	7.0%
釧路・根室連携地域	46	5.3%
無回答	5	0.6%
<b>【人口規模別】</b>		
札幌市	327	38.0%
人口10万人以上の市	221	25.7%
人口10万人未満の市	155	18.0%
町村	149	17.3%
無回答	8	0.9%
<b>【性別】</b>		
男性	394	45.8%
女性	435	50.6%
回答しない	31	3.6%
<b>【年代別】</b>		
18～29歳	80	9.3%
30～39歳	149	17.3%
40～49歳	207	24.1%
50～59歳	218	25.3%
60～69歳	138	16.0%
70歳以上	61	7.1%
無回答	7	0.8%

区分	総数	比率
<b>【職種別】</b>		
自営業（農林漁業）	17	2.0%
自営業（商工サービス業）	47	5.5%
自由業	44	5.1%
事務職系	264	30.7%
労務職系	233	27.1%
主婦・主夫	137	15.9%
学生	15	1.7%
無職	88	10.2%
無回答	15	1.7%
<b>【市町村居住年数別】</b>		
1年未満	22	2.6%
1～5年未満	49	5.7%
5～10年未満	61	7.1%
10～20年未満	122	14.2%
20年以上	599	69.7%
無回答	7	0.8%

注) 個々の比率（百分率）は、少数第2位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が100.0%にならない場合がある。

### 3 サンプリング

母集団	道内に居住する満18歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

#### (1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、  
岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、深川市、長沼町、栗山町、  
★小樽市、倶知安町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、  
登別市、伊達市、洞爺湖町、新冠町、新ひだか町

【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、森町、八雲町、江差町

【道 北】 ★旭川市、名寄市、富良野市、東神楽町、上富良野町、中富良野町、  
留萌市、羽幌町、稚内市、浜頓別町

【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、湧別町

【十 勝】 ★帯広市、音更町、芽室町、幕別町、本別町、浦幌町

【釧路・根室】 ★釧路市、釧路町、根室市、中標津町

注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市

② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の市」「人口10万人未満の市」「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、令和4年5月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

#### (2) 標本配分

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、令和4年6月1日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の調査地点数を各圏域へ比例配分した。

#### (3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（条町丁字名別）の抽出

各圏域（各層）に配分した調査地点数を「住民基本台帳人口」を基に、圏域内の人口規模別に分類した市町村へ比例配分し、調査対象市町村を選定した後、選定した各市町村別に、比例配分された調査地点数分を「条町丁字名別」に無作為抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、各調査地点（条町丁字名別）ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、全道で合わせて調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R4. 5. 31 現在)	選挙人名簿 登載者数 (R4. 6. 1 現在)	標本数	地点数
道央広域 連携地域	札幌市	1,962,115	1,687,353	570	57
	人口10万人以上	397,867	344,286	110	11
	人口10万人未満	650,847	565,760	190	19
	町村部	280,155	244,184	70	7
道南 連携地域	人口10万人以上	246,263	217,650	70	7
	人口10万人未満	44,613	38,125	10	1
	町村部	116,723	103,223	40	4
道北 連携地域	人口10万人以上	325,864	283,741	90	9
	人口10万人未満	115,473	101,424	40	4
	町村部	135,509	116,986	50	5
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	113,747	99,082	30	3
	人口10万人未満	54,496	47,384	20	2
	町村部	99,186	86,130	30	3
十勝 連携地域	人口10万人以上	164,434	141,443	50	5
	町村部	165,663	141,467	50	5
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	161,704	141,957	50	5
	人口10万人未満	23,810	20,882	10	1
	町村部	103,676	88,808	20	2
合計		5,162,145	4,469,885	1,500	150

#### 4 調査地点一覧

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	空知総合振興局	岩見沢市	北6条西19丁目
			ふじ町2条6丁目
		美唄市	東7条北4丁目
		滝川市	花月町1丁目
		砂川市	西5条北
		深川市	3条
		長沼町	あかね1丁目
		栗山町	中央2丁目
	石狩振興局	札幌市中央区	北3条西16丁目
			南13条西17丁目
			南16条西18丁目
			南1条西24丁目
			南24条西8丁目
			南3条西22丁目
			宮の森2条9丁目
		札幌市北区	あいの里4条4丁目
			北12条西2丁目
			北14条西1丁目
			北22条西4丁目
			北36条西7丁目
			新川1条2丁目
			新川西1条3丁目
		新琴似1条10丁目	
		札幌市東区	北13条東14丁目
			北21条東14丁目
			北41条東6丁目
			北丘珠4条1丁目
			東雁来13条2丁目
			東雁来7条1丁目
			東苗穂7条1丁目
伏古7条4丁目			
札幌市白石区	川下1条7丁目		
	菊水5条1丁目		
	菊水元町9条2丁目		
	北郷7条4丁目		
	南郷通9丁目南		

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	札幌市白石区	本郷通 6 丁目北
		札幌市豊平区	水車町 2 丁目
			豊平 1 条 7 丁目
			豊平 3 条 7 丁目
			西岡 3 条 10 丁目
			平岸 2 条 9 丁目
			平岸 7 条 17 丁目
			美園 3 条 8 丁目
		札幌市南区	石山 3 条 8 丁目
			川沿 2 条 3 丁目
			澄川 2 条 2 丁目
			藤野 6 条 4 丁目
		札幌市西区	琴似 1 条 6 丁目
			西野 14 条 8 丁目
			二十四軒 1 条 4 丁目
			八軒 1 条東 1 丁目
			発寒 11 条 5 丁目
			山の手 5 条 3 丁目
		札幌市厚別区	厚別北 3 条 2 丁目
			厚別中央 3 条 4 丁目
			厚別西 5 条 1 丁目
			上野幌 1 条 4 丁目
		札幌市手稲区	曙 12 条 2 丁目
			稲穂 4 条 6 丁目
			新発寒 5 条 5 丁目
			前田 4 条 12 丁目
		札幌市清田区	清田 2 条 1 丁目
			清田 7 条 2 丁目
			平岡 4 条 3 丁目
		江別市	大麻北町
			大麻中町
			野幌松並町
		千歳市	青葉 5 丁目
信濃 3 丁目			
富丘 4 丁目			

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	恵庭市	泉町
			恵央町
		北広島市	稲穂町東3丁目
			西の里東1丁目
	石狩市	樽川5条3丁目	
		花川北4条2丁目	
	後志総合振興局	小樽市	天神1丁目
			船浜町
			緑3丁目
		倶知安町	南9条西1丁目
	胆振総合振興局	苫小牧市	富沢町11丁目
			有明町2丁目
			泉町1丁目
			ウトナイ南6丁目
			木場町3丁目
		室蘭市	花園町4丁目
			中島町3丁目
		登別市	母恋南町2丁目
			新生町3丁目
		伊達市	東浜町
洞爺湖町	浜町		
日高振興局	新冠町	東町	
	新ひだか町	静内緑町8丁目	
道南連携地域	渡島総合振興局	函館市	鍛冶2丁目
			金堀町
			亀田町
			五稜郭町
			新八幡町
			銭亀町
			高松町
	北斗市	本郷2丁目	
		七飯町	中島
	森町	常盤町	
		八雲町	富士見町
檜山振興局	江差町	柏町	

圏域	抽出市町村		抽出地点
道北連携地域	上川総合振興局	旭川市	10 条通 22 丁目
			5 条通 23 丁目
			旭町 2 条 14 丁目
			神楽 5 条 1 丁目
			神楽岡 14 条 4 丁目
			神居 2 条 19 丁目
			川端町 2 条 5 丁目
			春光 4 条 9 丁目
			末広 3 条 7 丁目
			名寄市
	富良野市	本町	
	東神楽町	ひじり野南 2 条 1 丁目	
	上富良野町	光町 2 丁目	
	中富良野町	東町	
留萌振興局	留萌市	旭町 1 丁目	
	羽幌町	幸町	
宗谷総合振興局	稚内市	こまどり 1 丁目	
	浜頓別町	緑ヶ丘 1 丁目	
オホーツク連携地域	オホーツク総合振興局	北見市	柏陽町
			北央町
			三住町
		網走市	新町 3 丁目
		紋別市	潮見町 2 丁目
		美幌町	東町 2 丁目
		遠軽町	南町 3 丁目
湧別町	緑町		
十勝連携地域	十勝総合振興局	帯広市	西 11 条北 7 丁目
			西 16 条北 2 丁目
			西 16 条南 4 丁目
			西 21 条南 3 丁目
			西 25 条南 2 丁目
		音更町	雄飛が丘仲区
		芽室町	東めむろ 2 条南
		幕別町	緑町
		本別町	向陽町
		浦幌町	新町

圏域	抽出市町村		抽出地点
釧路・根室連携地域	釧路総合振興局	釧路市	愛国東4丁目
			興津4丁目
			白樺台2丁目
			文苑1丁目
			武佐2丁目
	釧路町	柏東	
	根室振興局	根室市	明治町3丁目
		中標津町	東39条北

## 5 この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差  
 N = 母集団数  
 n = 回答者数  
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
860	±2.89%	±3.86%	±4.42%	±4.72%	±4.82%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が860で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±4.72%以内（55.28～64.72%）である」とみることができる。

- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P5～P9）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。  
 【職種別】の種別による状況において、「自営業（農林漁業）」、「学生」の回答比率が上位2項目となった場合、回答者数が少なく標本誤差が大きいことから、「自営業（農林漁業）」、「学生」を除外した記述とした。